

[令和5年度] 第8回 飯田市新文化会館検討委員会 会議録

会議名称	第8回 飯田市新文化会館整備検討委員会
開催日時	令和5年9月5日(火) 午後7時～8時57分
開催場所	飯田文化会館 展示室1～3
出席委員 (敬称略・順不同)	上沼俊彦、川崎好昭、塩澤哲夫、高松和子、高山和夫、飯島剛、佐々木祥二、 小木曾俊夫、遠山あづみ、前澤正徳、小澤櫻作、佐々木宏幸、山元浩
欠席委員 (敬称略・順不同)	片桐啓、田中悦雄、原田雅弘、黒河内智子、桑原利彦、森本典子
オブザーバー (敬称略)	井坪隆
出席事務局職員	教育委員会：教育次長 秦野高彦、統括支援担当専門主査 松下徹 文化会館：館長 下井善彦 館長補佐兼文化会館建設担当専門主査 筒井文彦 管理係：係長熊谷誉司成、和田健太郎 事業係：係長木村喜宣、白井美樹、中島弘貴 人形劇のまちづくり係：係長山崎良二
会議の概要	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 今後の進め方 【配布資料No.1 (当日資料 p2)】 前回までの振り返り【配布資料No.2 (当日資料 p3-4)、 ニュースレター第6号】</p> <p>(2) 利用者団体との意見交換の概要について【資料No.3 (当日資料 p5-12)】</p> <p>(3) 基本構想の骨子(案)について【資料No.4 (当日資料 p13-14)】</p> <p>(4) 意見交換(ワークショップ)【資料No.5 (当日資料 p15)】 「新しい文化会館の基本構想に向けて」 テーマ：飯田らしい施設と事業 ～基本理念・活動を実現する施設機能と必要とされる事業とは～ 班別意見交換、発表、全体意見交換 【班編成(敬称略)】 1班(4名) 塩澤、遠山、佐々木、松下 2班(4名) 川崎、高山、山元、中島 3班(5名) 飯島、前澤、小澤、西村(明大)、木村 4班(6名) 高松、佐々木、小木曾、藤田(明大)、秦野、山崎 5班(5名) 上沼、井坪、小磯(明大)、下井、白井</p> <p>3 事務連絡</p> <p>4 閉会</p>

※会議録(発言)には委員の氏名を掲載いたしません。

1 開 会

○委員長 皆さん、こんばんは。

定刻となりましたので、ただいまから第8回新文化会館整備検討委員会を開催します。

本日は、片桐委員、田中委員、原田委員、黒河内委員、桑原委員、森本委員から欠席との連絡がありましたので、報告させていただきます。

なお、前回に続いて、学識委員である明治大学から学生さん3名が傍聴に来てくださっております。せっかくですので各班に入ってください、オブザーバー的に忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。3名の学生さん、自己紹介をお願いします。お名前、学年、出身地、特技など、いろいろお話いただけたらと思います。

○学生 皆さん初めまして。明治大学の研究室で活動しています、大学院2年の〇〇と申します。よろしくをお願いします。

少し緊張していますが、貴重な体験で、しゃべることは結構好きなタイプなので、いろいろ意見させていただければと思います。よろしくをお願いします。

○学生 同じく修士1年の〇〇と申します。

私は前回に引き続きまた参加させていただいていますが、今回もテーマが「飯田らしさ」ということで、私は普段、飯田にいないですが、外部の視点から「飯田らしさ」について考えられたら良いなと思っています。本日はよろしくをお願いします。

○学生 同じく明治大学大学院の修士1年の〇〇です。

私は中学、高校と吹奏楽部で、ホールや公民館と結構つながりがあったので、そういった経験を生かして今日はお話できればと思っています。よろしくをお願いします。

○委員長 急な振りにもかかわらず、端的にお答えいただきありがとうございます。よろしくをお願いします。

2 議 事

○委員長 それでは早速ですが、議事に入ります。

(1) 今後の進め方、前回までの振り返り

○委員長 初めに(1)前回の振り返りと今後の進め方について、事務局から説明をいただきます。
お願いします。

○秦野(事務局) それではよろしく申し上げます。教育次長の秦野でございます。

それでは「資料1」をご覧ください。今後の進め方について説明させていただきます。

昨年6月から皆様にご検討をお願いしていますが、そろそろ終盤に差し掛かってきたというところでは、次回の委員会を11月6日に開催したいと考えておりました、いよいよ基本構想の素案をご検討いただく予定です。さらに来年2月頃に第10回の委員会を開催し、最終段階の基本構想案をご検討いただきたいと考えているところです。

進捗状況によっては、12月頃に追加の委員会を開催させていただきまして、来年2月の委員会を第11回として開催させていただくことも可能性としてありますので、ご承知おきいただきたいと思っております。

では、本日の委員会ですが、前回ご検討いただきました「必要とされる施設の機能」から想定される「新しい文化会館での事業」について、意見交換をお願いしたいと思います。

なお、基本構想の後には、基本計画を策定することとなります。基本計画につきましては、より具体的な施設規模、設備を含めた機能、概算事業費や事業スケジュールなど、具体的な内容となります。

繰り返しになりますが、基本構想は基本理念を基にした事業のあり方、施設整備の方向性を大きな考え方でまとめていただくという段階です。

また、基本理念の「みんなが集い、創り 伝える 感動の飯田ひろば」を実現するために、立地に関する関心が高まっていることは承知していますが、建設候補地に関しましては、理想を追求しながらも一方で、法制度をクリアして大きな面積を確保しなければならないという現実的な対応も伴いますので、市の責任において調査、検討、判断していかなければならない課題であると捉えています。

なお、民間のコンサルタント会社に、市内4つのエリアごとの適地調査評価を委託しており、調査結果の報告を受けました。今後、その内容を参考にしながら、さらに建設候補地の検討を進めていくという段階となっています。

この件に関しましては、現在開会中(9月5日時点)の市議会にて、9月8日(金)の社会文教委員会協議会、9月25日(月)の全員協議会で報告する予定です。次回の委員会では、委員の皆様にも調査状況をお伝えさせていただきます。

いずれにしましても、現時点では、特定のエリアや地点を前提にした検討ができないことにつきまして、何卒ご理解いただきたいと思えます。

「資料2」以降につきましては、館長下井が説明します。

○下井（事務局） 文化会館館長の下井です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、前回第7回の振り返りということで、本日お配りした「ニューズレター、ボリューム6」をご覧くださいと、前回の内容をまとめています。5つの班に分かれていただいたワークショップをまとめており、同じ内容が本日資料3ページ、「資料No.2-1」です。こちらを説明させていただきます。

前回は、「基本理念・活動を実現する機能・空間とは」がテーマの意見交換でした。

まず「1鑑賞」ですが、「メインとサブの複数のホールが必要だろう」ということ。それから「さまざまなジャンルにも対応できるような多様性を備えたものが良いのでは」という意見をいただいております。また、「何をどう観たい、聴きたいのかというニーズ重視で考える視点が必要だろう」、「飯田らしさは、創造的な機能・活動から生み出していく視点が重要である」、「聴く人にとって快適なゆとりのある空間、施設にするべきだろう」という発表もありました。

「2創造」ですが、「舞台と同じ広さのリハーサル室が必要じゃないか」ということ。それから、『体験する』ということもキーワードとしては大きいだろう、「ものづくり工房、『ファブラボ』というものがあたらどうか」、「ホールの敷地内に『日常生活と重なる部分』がほしい」、「敷居の高い芸術劇場ではなく、『でっかい公民館』のような感覚の場所が良いのではないか」というご意見がありました。

「3交流」としては、「幕間に感想を出し合ったり、演奏者と聴き手が演奏の後に交流できたりする場所があると、もっと豊かな時間が生まれるのでは」というご意見。また、「表現活動ができる広いスペース、それを周りでくつろぎながら見られるスペース。その周りにホールやスタジオなどがあると良い。カフェやストリートピアノも」、「ロビー中庭など、広場のようなオープンスペースがあると良い」というご意見もありました。

これらの発表を通じて、共有された意見として「日常と結びついた機能性や空間性、半屋外、それから屋外的な空間が良いだろう」、それから「創造活動が起こるような空間性、工房とかものづくり工場」ということ。「イメージとしては『大きな公民館』のようなもので、『非日常的なホール』と『使い勝手のいいホール』のバランスが重要ではないか」ということが挙げられています。

続いて、次のページ「資料No.2-2」、4ページです。こちらは、発表以外で各班から出さ

れたご意見を紹介しています。

「1鑑賞機能」としては、メインホールとサブホールということが出ており、圏域として、南信州圏域の皆さんを主な対象とすることが共有されています。また、「メインホールの客席数は、1,000席から1,300席程度が必要」という意見が多かったです。

サブホールにつきましては、「市民団体の発表を想定すると、旧飯田市公民館や現在の県文化センターのホール規模が使いやすい」という意見や「300席から500席程度のサブホールが必要」という意見が多かったです。鑑賞機能のホールとしては、「人形劇フェスタ、オケ友、伊那谷文化芸術祭などの大型イベントにも対応できることが求められるだろう」ということがありました。

続いて「2創造支援機能」としましては、やはり「舞台の広さを持ったリハーサル室が必要」という意見が多くありました。さらにリハーサル室には、「練習だけではなく、人形劇や演劇などの小規模の発表にも使える多機能なものが求められる」という意見がありました。

続きまして「3交流促進機能」としては、「市民が気楽に立ち寄れるための広めのロビーやエントランス、半屋外の広場などが必要」との意見が多く、「さらに賑わいを創出するスペースや空間が必要」という意見もいただいております。

なお、交流促進の視点では、「鑑賞や創造活動において交流を意識した施設としていくことが大切」とのご意見もありました。

最後の「4管理機能」につきましては、資料のとおりです。

説明としては以上ですが、コーディネーターをお願いしています学識委員から補足がありましたらお願いしたいと思います。

○学識委員 皆さん、こんにちは。本日もよろしく申し上げます。

今回も大変分かりやすい資料を用意していただいて、分かりやすい説明をしていただけたかと思います。

前は「新しい文化会館の機能・空間とは」というテーマで皆さんが議論されたわけですが、その中で、この委員会に参加していてすごく良いなと思うのは、単なる箱の議論にならず、「こういうアクティビティ、こういう活動をしたいからこういうものが必要」という話がされている、というところです。それが今、説明していただいた資料に大変分かりやすくまとまっていると思います。

すなわち、いわゆる「もの・空間」にいく前に、その基になっている「こと」の部分がすでに前回、かなり議論されていたなと感じています。今日の議論というのは、後ほど細かい説明があると思いますが、いわゆる「(事業＝) こと」の部分を話されるのだと思います。

前回からすでにその辺に対する意見も多く出ていたので、前回の議論をさらに掘り下げて、その「こと」の部分で議論していくことが本日の委員会の主な目的だと理解しています。

本日も皆さんの建設的で積極的な議論を楽しみにしていますので、よろしくお祈りします。
以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま（１）前回の振り返り、今後の進め方について説明がありました。

ご質問等ありましたらご発言いただきたいと思います。ご発言の際は、挙手していただき、お名前をおっしゃってから、着座のままで結構です。

ご質問ご意見、どうぞお願いします。

（発言する者なし）

○委員長 よろしいでしょうか。

それでは次に進めさせていただきます。

（２）利用者団体との意見交換の概要について

○委員長 続いて、（２）利用者団体との意見交換の概要について、に進みます。

事務局、説明をお願いします。

○下井（事務局） それでは本日の「資料No.3」5ページをご覧ください。

こちらは、7月に飯田文化協会と共同で、伊那谷文化芸術祭の出演団体を中心にご意見を伺ったことの報告です。7月中旬に5回開催して、延べ20名の方にご参加いただきました。

この会議では、整備検討委員会の検討状況をお伝えするとともに、利用者団体の皆さんのご意見をお聞きすることができました。なおこの会議では、令和4年に行った利用者団体アンケートの概要も報告しております。資料の10ページから掲載していますので、後ほどご覧いただきたいと思います。

続いて6ページをご覧ください。次の7ページから実際にいただいた意見を羅列しておりますが、それをまとめたものが6ページです。概要としてまとめてありますが、先ほど申し上げましたとおり、整備検討に関するこれまでのことを報告させていただいた中で、進め方や方向性については概ねご理解いただいたと感じています。

意見交換の中では、基本構想に関するもの、現在我々が検討しているもの、それからもう少し先の基本計画や管理運営計画というようなものに踏み込んだようなもの、いろいろな意見がありました。一番多くいただいたのは基本計画に関するもので、その中でも、施設整備

の充実を希望される意見が多かったです。

本日の資料6ページの上半分は、基本構想に関するものとして抜き出してありますが、こちらのほうが本日の会議の参考となる資料だと思っています。また下半分のほうは、次の基本計画等に生かしていく部分になろうかと思えます。

いくつかご意見がありますが、「舞台と同じ広さのリハーサル室」、「フリーマーケットや交流イベントの開催」、「誰もが集える空間の希望」など、これまでのこの委員会でも出していただいたご意見があります。

なお補足ですが、飯田文化協会においても、新しい文化会館に関する進捗状況を共有したいということで、独自に団体へのアンケートなどを予定しているようです。

説明は以上となります。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま、利用者団体との意見交換の概要について説明がありました。

何かご質問、ご意見等ありましたらご発言いただきたいと思います、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長 よろしいでしょうか。

それでは次へ進みます。

(3) 基本構想の骨子(案)について

○委員長 続いて、(3) 基本構想の骨子(案)について、に進めます。

事務局、説明をお願いします。

○下井(事務局) それでは、資料13ページ「資料No.4」をご覧ください。

こちらは骨子案で、前回からの変更はなく、基本構想の目次として捉えていただきたいと思います。

それから次の14ページは、「基本構想のイメージ」を掲げています。こちらは前回お示したものに幾分手を入れてあります。基本構想で最も大切である新しい文化会館の基本理念と基本方針の部分について、これまでの検討委員会でのご意見、今回の利用者団体の皆様からのご意見などを反映させて、若干修正しています。

基本理念を実現するための基本方針として、①から⑤の5つの言葉でまとめています。

①「集う」は、誰もが集うことができる芸術文化施設を目指すことを指しています。

②「観る」は、市民が優れた芸術文化に触れ、心が満たされる鑑賞の機会を提供するとい

うことです。

③「創る」は、地域の人たちが集まって創り出す拠点施設として、飯田の新しい芸術文化を創造し、発信します。

④「伝える」は、自分たちの創り上げた文化を人々に発表・発信することや、芸術文化を紹介してのコミュニケーションを行います。また、伝統芸能の伝承やこれまでの文化活動を継承することを目的とした積極的な情報発信も含みます。

⑤「育む」は、芸術文化活動の実演者や支える人材を育成するとともに、将来の芸術文化活動の担い手が育つ環境を整えます。さらに「まち」を育む施設となることを目指します。

と、この5つを基本方針として整理しています。

先ほど申し上げましたとおり、骨子案は前回と同じで、基本構想のイメージも、これまでの委員会の意見や利用者団体の皆さんの意見を反映したものです。

さらに本日の委員会での意見も事務局でまとめまして、次の委員会では、基本理念を確定することも含めて、基本構想の素案を検討していただきたいと考えています。

説明としては以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま（3）基本構想の骨子（案）と基本理念・基本方針について、現時点での考え方を説明していただきました。

何かご質問等ありますでしょうか。ご発言いただきたいと思います。

（1）から（3）まで一気に進めてしまいましたが、よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○委員長 はい、ありがとうございます。

（4）意見交換「新しい文化会館の基本構想に向けて」（ワークショップ）

テーマ：飯田らしい施設と事業

～基本理念・活動を実現する施設機能と必要とされる事業とは～

○委員長 それでは続いて、（4）我々のワークショップに進みたいと思います。

本日は、新文化会館の基本理念と基本方針を実現するために必要となる事業、この「事業」という言葉が少し難しいですが、具体的な活動について各班で意見交換をしていただきたいと思います。その後、班ごとに発表していただき、共有していきたいと思います。

それではワークショップの進め方について、事務局から説明をお願いします。

○下井（事務局） それでは、ワークショップに入りたいと思います。

これまで説明ばかりで恐縮していますが、これからワークショップに入ってもらいます。

「資料No.5」、15 ページをご覧ください。今回は「鑑賞・創造・交流」という3つの視点で「機能・空間」について話し合っていました。

本日は、新しい文化会館で必要となる「事業」、「こと」と言ったほうが良いかもしれません。必要となる「こと」についてお話し合いいただきたいと思います。

資料 15 ページにある①から⑤までの5つのキーワードを手がかりに、ページの下側、赤い枠の中に例示を書いています。誰が、何を、どうやって」というようなことで考えていただきますと意見交換が進みやすいかと思います。

5つの枠がありますので、一つの枠を概ね 10 分程度と想定しますと 1 時間ほどかかりますが、自由にご発言いただきたいと思います。話し合ってください順番は特に決めていませんし、この5つの枠全てに触れていただく必要はありません。

最後には各班発表の時間を取りますので、発表者を決めていただいて、3分程度になってしまうかと思いますが発表をお願いします。時間になりましたら、事務局が合図しますので、班の代表の方に発表していただきます。

それではワークショップに入ってください。よろしくお願いします。

（ワークショップ）

○筒井（事務局） それでは、発表の時間にしたいと思います。

1 班から順番に各班 3 分程度をお願いします。項目が多かったので、お一人だけでなく、補足として複数の方に発表いただいても結構です。

それでは初めに 1 班からよろしくお願いします。

○1 班委員 1 班です。よろしくお願いします。

1 班では、まず「中から」、「外から」ということで話し合ってみました。「中から」、つまり、飯田市民が発信していく、つくっていく、というあり方としては、既にもう確立されている。今ここにいらっしゃる皆さんも発信する側の方々だと思いますが、既にできているものがある。それをいかに発展させていくか、ということになると思いました。

次に「外から」、外の人たちを呼んでくる、という発想ですかね。今後、開拓、発展させたものとして、日本なり世界なり、外で活躍されている飯田出身の方、さまざまな分野でいらっしゃいますが、そういう方々の凱旋。ふるさとに帰ってきていただいて、ここで演じて、

ここで次世代を育てていただく、という良いスパイラルができるのではないかと思います。それがまた地域へ広く発展していくのではないかと、という考え方がありました。

それから、外からも一つの視点ですが、「GLIM SPANKY」、「劇団四季」、「King Gnu」といったビックネームを呼んでくるにはどうしたら良いだろうか。例えば、今までは、劇団四季は飯田文化会館で演じることができませんでした。「機能的に不十分なので演じることができません」と断られてきた。それでは、「演者にノーと言われない機能を新しい文化会館に備えることが大事だろう」という話になりました。

それから、オンラインや出前講座にはどんな可能性があるか、また新たに発想していくものだと思います。

「リニアが開通しても、外から多くの観客を呼ぶことはなかなか難しいだろう」という専門家の話も前にありましたが、「リニアが開通したら、識者、有識者の方々、第一線で活躍されている方など、外の方々から学びを得たいときに呼びやすくなる、と考えれば良いのではないか」という話になりました。

それからもう一つ、「需要と供給、『観たい』という需要がある。『こういうものができますよ』という供給がある。それらをつなげる、ハブになるものを充実させる新たな事業、仕組みを確立させていく。施設というハードなものではなくて、ソフトの部分も充実させていく必要がある」という話になりました。

以上です。

○筒井（事務局） ありがとうございます。

続いて2班、お願いします。

○2班委員 2班です。①から⑤の「集う・観る・創る・伝える・育む」を一つずつ、と考えましたが、話しているうちにどんどん広がりまして、特に「伝える」は「集う・観る・創る・育む」にもつながってくる、ということになりました。「飯田らしさ」の中で新文化会館がどう取り組むべきか考えると、「飯田には伝統芸能をはじめ、いろいろと携わっている方がいる。そのことをどんどん広げていくべきじゃないか。情報発信していく必要があるのではないかと。それによって利用度も高まるだろう。特に、舞台上で発表することがあまりない獅子舞や太鼓の団体が、少しでも発表しやすい環境づくりが必要じゃないか」と意見が出ました。

それと、この飯田下伊那では、オケ友をはじめ芸術祭、人形劇フェスタと、市民主体で行う行事が多くあり、文化芸術に携わる方が非常に多いということで、「それをもっと伸ばしていくべきじゃないか」、「今、できているノウハウ、これを少し広げることによって、また新しい行事もできてくるのではないかと」、「新文化会館ができるきっかけで、市民やいろいろ

な団体の横のつながりができて、いろいろな発表ができる企画を立てる。そういった組織ができていくと良いのではないか。そうすることによって裾野が広がって、将来的にも、小さい子どもたちが大きくなったときに携わることをできるのではないか。これも一つの「育む」にもつながっていくし、演じる側がほかの発表を観ることによって、『私もそれをやってみよう』とどんどん広がってくるだろう」という意見が出ました。

そこで、「いろいろなジャンルが運営委員会的なものをつくって、企画運営するといった新しい動きをバックアップできる体制が新文化会館にできるとももっとも利用度も高くなり、ジャンルそれぞれの活動も大きくなっていくのではないか。新しいことができる、そういうものをつくっていききたいな」という意見でまとまりました。

以上です。

○筒井（事務局） ありがとうございます。

続いて3班、お願いします。

○3班委員 報告させていただきます。3班ではまず「集う」について、ほかと比べると非常に抽象的で広い言葉のキーワードなので、誰を対象にして、何のために集ってもらうか、というところから話を始めました。

「地元の人のほか、市外の人、芸術文化、特に舞台芸術や音楽にあまり関係がない人たちにも集ってもらうことが理想だな」というところへ行きながら、「じゃあ、そのための活動としてはどんなことをやるのか」というと、1班や2班でも出ていましたが、「きっかけをつくっていくこと。集ういろいろな機会をつくっていくことが大事だろう」ということで、「それを広げていくと『集う』の中には、例えば、観てもらおう集いもあるし、創るという集いもある。全部が集うにつながっていくのですが、これからの文化会館の活動は『集う』ということが一番意識して、仕掛けていくことが大事だろう」となりました。そのあと、「具体的に施設の中で『集う』をサポートしていくことは、実はすごく大掛かりな施設・設備が必要ではないか」と、3班はお二人がホールスタッフの専門家ですので、「新文化会館の設備機能の中では、やっぱりサブホール、スタジオ、リハーサル室となる施設をどれだけ充実したものに整備できるか、ということが一つのポイントになるのかな」という話に展開していきました。

一方で、新文化会館はより多くの人に集ってもらう、特に「大きな公民館」というイメージからすると、「誰でも簡単に使える」ということになりませんが、「実は今のホールの設備機能というのは非常に高度化していて、安全管理という点では容易に使えるものではないので、設備の取り扱いをサポートする仕組みが非常に重要になってくる」という話もありました。

「市民の皆さんが日常的に貸館として利用することをサポートしながら、そこから多くの

方がいろいろな目的で集って、相互に交流をしていく。そして、相互理解が広まって、いろいろなジャンルに広がっていくと楽しいのではないか」というところで話が終わったところ
ろです。

以上です。

○筒井（事務局） ありがとうございます。

続いて4班、お願いします。

○4班委員 どんなものをつくりたいか、よりも、どのような使い方をしたら良いのか、という
ところに話がいったような気がします。

「建物が立派で大きいだけで十分に使えていない、ということのないように、私たち市民
一人一人が、その素敵な文化会館の中でどんな活動ができるだろうか。どんな人たちを呼ん
でこられるだろうか。呼ぶには、私たちの力量が、新しい舞台と演じる内容の調和が取れる
ように、これから何年かかるか分かりませんが、新文化会館が建つまでには充実していくと
良いな」ということが結論です。「単に箱物だけを問題にするのではなくて、そこを利用して
私たちが育っていく、市民が育っていくということを併せ持ちながら進めていくことが望ま
しいのではないか」という話が出ました。

要するに、地元のものを鍛えるということもあるでしょうし、私たち一人一人の観る力、
演じる力を育てていくことも大事。外部との交流も大切ではないかということ。私は、そう
いうことをできることが飯田らしさではないか、と思います。

「飯田の伝承をどのように大事にしていくか、広げていくか」といった話も出ましたが、
そういう活動を象徴できるような、箱物が箱物で終わらないような、文化会館を十分に使い
切って、表現活動や自分を高めていくところにつなげていけるといい、ということです。

それと「やっぱり人口減がすごい」という話に最後になりました。浜井場小学校では現在の
ところ、来年度の入学生が10名ほどしかいないそうです。あわせて高齢化が進んでいる時
代に、建物が大きく広いところでゆったり聴くということも望ましいと思いますが、この時
代の中でどうやって文化芸術に親しむか、建物以外の部分をもっともっと勉強していかな
ければいけない、ということも感じた次第です。視野を広げるというか、そういうものを通し
て、まちが少しでも大きくなってくれれば良いのかな、ということを感じました。

4人でそんな話をさせていただきました。ありがとうございます。

○筒井（事務局） ありがとうございます。

最後に5班、お願いします。

○5班委員 5班の発表をさせていただきますが、正式な委員は私しかいませんので、これから発

表することは私の個人的な意見にならないように、アドバイザーとの二人の意見を学生さんに随分と薄めていただきながらまとめました。そんなふうに聞いていただければと思います。

この班では、施設に関しては意見がかなり出し尽くされているかなというところで、運営をどうしていくのか、そこでやることはどうあるべきなのか、というところを中心に話し合いました。①から⑤と全体を話しましたが、こだわったのは「育む」というところです。二人から出たのは、「いや、『楽しむ』じゃないのか」、「楽しむ先に育むがあるのではないのか。やっぱり、やっている人やここに関わる人たちが楽しむことで地域の文化を育む、ということにつなげよう。だから『楽しむ・育む』というところにこだわりがありました。それと、この現文化会館を支えている事業は、市民の方が関わっている実行委員会の運営形式が支えになっています。「それを支えるような枠組みをつくっている飯田市の考え方がいいね」ということから始まったのですが、ただ、この文化事業の実行委員会は、メンバーが固定化してきている。また、それが輻輳して関わっているということは、その広がりが出ていないのが課題なのかなと思う。では、それをどうやってさらに広げていくのか。ここにいる二人が学生さんたちの世代にどうつなげていくのかというところを、誰が考えて、どうやってそれを運営していくのか。少し高いところから見ると組織も必要だったりするのかな。そういうことをやっていかないと、「新しい館ができました。従来の事業をやっていきますから」とどまって、広がりにもっていけないのかなと。そこが課題か。「それをどういうふうにしていくかを市民で考えていくような場をつくっても良いのかな」という話でした。

あとは「館の機能は、やっぱり演ずる人たちにとっても使いやすいようにしていく必要がある」という話が出ました。

付け加えることがありますか。ないということで、5班の発表を終わらせていただきます。

○筒井（事務局） それぞれの班からの発表、ありがとうございました。

最後、委員長に進行を進めていただきたいと思います。お願いします。

○委員長 それでは交代します。

次に移ります。本日の振り返りとして、学識委員、それからオブザーバーからコメントをお願いしたいと思います。その前に、学生さんが3名いらっしゃいますので、一言ずつ感想をいただきたいと思います。

よろしくお願いします。

○学生 ありがとうございました。

大変勉強になった会でありました。全然知らない部分の知識から教えていただくというか、さまざま僕の知らないようなところからいろいろ勉強させていただいたなというところで

す。二面性なところ、日常と非日常、県外の人なのか県内の人なのか、あと飯田らしさを大事にするのか、飯田文化会館らしさをつくっていくのかを、議論の中ではいろいろお話できたかなと思っています。

本日はありがとうございました。

○学生 本日はありがとうございました。

私は芸術の分野に疎いのですが、今日のお話を踏まえて、文化会館をはじめとする芸術分野での飯田らしさというのと、私たちが普段研究室で活動させてもらっている部分で感じる飯田らしさというのにつながりが見えたような気がして、とても非常に興味深い内容でした。

本日は本当にありがとうございました。

○学生 本日は貴重な機会をありがとうございました。

飯田ではすごく人口が減少しているというお話を聞いて、年間で200人も外に出ている中でも、飯田らしさとして、人形劇といったさまざまな芸術だったり、文化だったりあるということを通して新しい視点で見えてきて、すごく良い機会になりました。すごく楽しかったです。

ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございました。

それでは学識委員の方からコメントをお願いします。

○学識委員 今回もお邪魔させていただきましてありがとうございます。

今回、3班は偶然なのか、たまたまホール運営にそれぞれの立場から長く関わってきた3名が集まりました。そうしたお話から、とても楽しかったなあと感じているのですが、この委員会に来るといつも思いますが、飯田の皆さんがこれまで長い月日をかけて積み上げ、積み重ねて発展させてきた芸術活動といいますか、芸術祭といったところが、本当にすごい財産としてこのまちに残しているということを感じています。

一方で、私は音楽祭に来ていましたが、やはり音楽祭というのは一年の中で一時だと思えます。そこで、それ以外の日常というとき、新しい劇場ができるということは、そのまちの日常に寄り添う劇場がそこにできるということですので、「その日常は何か」というと、ここにある「集う・観る・創る・伝える・育む」が日常としていかに寄り添えるか。ときには、次の時代を切り開くような存在にいかになれるか、というところを感じさせていただける機会となりました。

この検討委員会の積み重ねでできている資料がとてもワクワクするものになってきていますので、あと数回ですけどもさらに、どんどん夢のある構想へと発展できていったらいいなど改めて感じました。

ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

それでは、○○学識委員、お願いします。

○学識委員 皆さん、お疲れ様でした。

お二人の学識委員もおっしゃたんですけど、この委員会に参加するとういう資料が本当にきちっとされていたり、今回のこういう事業の話となると大体、自分の好きなアーティストの名前がバーンと出てきて、そのコンサートをやってほしいという意見で終わったりしますが、この委員会の場合はそういうことがほとんどないという、そういう各論にいかないという、それがもうまさに飯田らしいなと思っています。

前回の施設設備の話でもそうですが、これまで飯田の皆さんがやってこられたフェスティバルだとか既存のいろいろなプログラム、大体それを皆さん想定されながら、今日も5つの班に分かれてお話が出たと思います。

前回の設備や機能面と、今回の事業というのは関連性が高いと思います。これからますます具体的な内容になっていくと思いますが、先ほど世代間のお話が出ていましたが、今後は若い皆さんが使っていくことを考えると、これからの情報発信力、若い人たちの情報発信力に耐えられるだけのホールを造る必要がありますし、そうならないと利用者もなかなか広がらないだろうとも思います。

若い皆さんや地域の皆さんがどんだんだんだんここを使うことがホールの活性化につながり、それがまちの賑わいにもつながってくるだろうと。そうすると、こういうホールの存在がまた新たな人材育成の場にもなって、例えば、実行委員会であったり、ホールの職員であったり、いろいろな技術面のスタッフであったり、そういうことを目指す人材育成の場にもなればいいなとも思います。

本当にいろいろなことを、自分では思っていなかったようないろいろなお話が出て、なかなか勉強になりました。また次回も楽しみにしています。

ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

それでは、○○学識委員、お願いします。

○学識委員 皆さん、どうもお疲れ様でした。

私も毎回感じることですけれども、本当に資料がまとまっているなと思います。今日も14ページ、15ページの資料を見ていると、あまり新たな議論を生み出すのが難しいという印象を受けることが一つあります。

あと、この委員会に参加するときにもいつも思いますが、あまり身構えなくていいといいですか、皆さんの全体の議論に非常に一貫性があります。その同じもの、意識を共有しながら、その上でいろいろな意見が展開していくということが、この委員会の本当にすごいところだなと思います。

すごく一貫されているのが、事業の話とかをしても、非常に内発的な自発的な文化・創造へのイメージが皆さんの中であって、まさに、外から自分の好きなこれ呼びたい、といった話にならない。逆に、私が今日このテーブルで、「どちらかという内発的なことは結構出尽くしたので、ちょっと外からの話とか聞かせてもらいますか」と振りましたが、その話自体も地域の話に組み込まれていきましたので、本当にすごいことだと思います。

あとはやはり皆さん、新文化会館の箱の話をせずに、使い方とか活動の話をするので、話に参加していて、情景がイメージできて楽しいです。我々の仕事でもそうですが、皆さんがイメージしている活動が「こんな空間で展開したらすごく楽しいだろうな」とイメージできて、すごく面白いです。皆さんの議論を聞いていると、箱を足し算でやっていくのではなくて、活動のための場をつくるイメージが皆さんの中にすごくあるなと思います。

その中で今日、新たに社会背景的なこととして、高齢化や人口減少が出てきました。新たに出てきた話題をまた考えてみると、実は皆さんが話してきた新しい新文化会館のあり方というのは、そういったことに対応できるような、規模で何かをやっていくというよりは、自分たちで育てていく、内発的、自発的にやっていくということが、現在の飯田の社会背景に非常に合っている。受動的ではなくて、非常に能動的な取り組みというが、皆さんの置かれている状況、地域の置かれている状況にも合っていると、改めて確認させていただきました。

資料が非常によくまとまっていて、今日の発表を聞いていてもそうですけれども、前回の機能や空間に関する議論、それから今日の事業に関する議論、基本構想の中に組み込まれる議論は、皆さんの中で尽くされた感じがあるなと。もちろんまだまだ新しいアイデアはいくらでも出てくると思いますが、次回以降、皆さんのこれまでの非常に一貫性のある議論が、どういった構想にまとめ上げられていくか、非常に楽しみだと思いながら議論に参加させていただき、皆さんの発表を聞かせていただきました。

今日も大変充実した時間をどうもありがとうございました。

○委員長 ありがとうございます。

それでは続いてオブザーバー、お願いします。

○オブザーバー 先月、議会の視察で北海道へ行ってきました。富良野市の「富良野演劇工場」に行ってきました。「演劇工場」が変わった名前だなと思ったのですが、公設民営劇場の名前で、

ここを視察し、事務局長の話を聞いてきました。

非常に参考になったことは、運営しているのが「ふらの演劇工房」というNPO法人で100人くらいのボランティアが支えており、100人のボランティアが、「市民がどう生かすか」ということに本当に一生懸命やっているということが一つ。

それからもう一つは、「演じる人のために文化会館はありたい。そのことが結局は観る人のためにもなる」ということでした。

今回の議論の中でも、やや遠ざかっているのが、演じる側に立ってどうかという文化会館。この視点もこれから大事だなと思ったのは、今日のアンケート資料の中に、利用団体の皆さんの声が具体的に書かれていて、これを全部受けるわけではないけれども、演じる側にとってどういう文化会館かということは、結構大事な視点かなと思いました。

視察当日、現場を見ましたけれども、確かによくできていました。演劇ホールですから直接参考にはなりませんけれども、舞台のほう客席より広いです。ステージが幅27m、奥23mです。すごく広いステージで、奥23mのステージを半分にして、裏側がリハーサルスペースになるという形で、非常に利用勝手がいいなと思いました。

具体的に参考になる例ではありませんが、先ほど申し上げたような、演じる側にとってどうだということは大きな視点かなと思います。

最後に、学識委員からこの場は「もの」ではなくて「こと」をしっかりと議論していると。つまり「こと」、先ほど〇〇委員もおっしゃっていましたが、使われ方がどうなのかと。このことが非常に大事だと思いました。そのことは先ほど〇〇委員からも発表がありましたけれど、どこかほかの芸術劇場や文化会館では、芸術監督を置いて運営しています。そうではなくて、使い方においては、市民の方々のプロデューサーによる運営ということが非常に大事だなと。そんなことを強く感じました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それでは最後に事務局から、本日のまとめと次回に向けてのご発言をお願いします。

○秦野（事務局） 本日は、遅くまで熱心なご議論をいただきまして、ありがとうございました。

これまで積み重ねてきた議論を基に、次回は基本理念・基本構想の素案の検討をお願いします。具体的な内容の検討が始まりますが、その場でさらに盛り上がって、さらなる議論を要する状況になりましたら、次々回にもう一度お願いしたいとも考えています。皆様方また熱心なご議論をお願いします。

本日は遅くまでありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

本日予定されておりました議事は以上となります。

委員の皆さんには熱心なご議論、そして議事の進行にご協力いただきありがとうございました。

引き続き次回以降もよろしくお願いいたします。

次回が楽しみです。

3 事務連絡

○委員長 最後に、事務連絡を事務局からお願いします。

○筒井（事務局） はい、ありがとうございました。

本日の委員会や今後の進め方に関して、ご意見等ありましたら随時、事務局文化会館で受け付けていますので、お気軽にご連絡いただければと思います。資料の中のアンケート用紙や、メールでのご提出も結構でございます。よろしくお願いいたします。

なお、次回、第9回の整備検討委員会は、11月6日月曜日、この文化会館の同じ会場にて開催したいと思っておりますので、今から日程の調整をお願いします。

なお本日、新しいニューズレター、会場入口のところに多く用意していますので、お近くの方にご配布いただけましたら幸いです。

以上です。

○委員長 ありがとうございました。

5 閉会

○委員長 それでは、以上で第8回、飯田市新文化会館整備検討委員会を閉会とします。

ありがとうございました。お世話になりました。

閉会 午後8時57分